



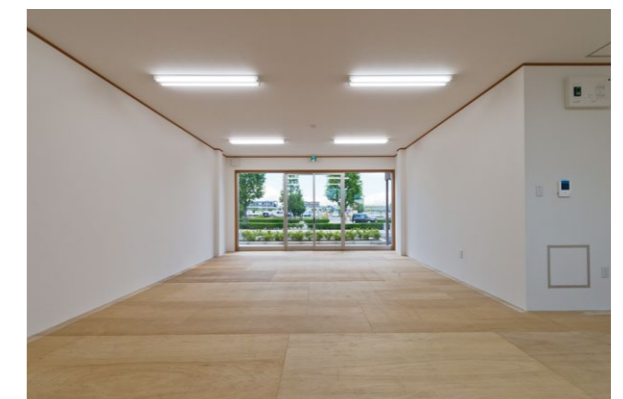
1階テナントの開口部は<テクノビーム>の採用により幅4,500mmを確保

夢みのハウス

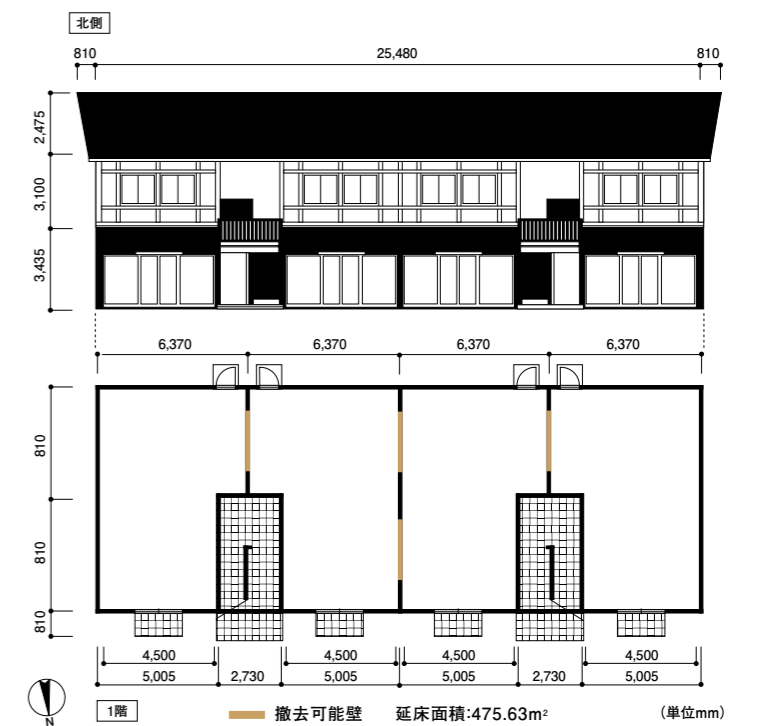
所在地 / 茨城県牛久市ひたち野東
 設計監理 / 株式会社伊勢喜屋工務店
 施工 / 株式会社伊勢喜屋工務店
 竣工 / 2013年11月
 構造形式 / 木造(テクノストラクチャー工法)



広い開口部により実現された開放的な店舗空間(イタリアン酒場 びすとろ 樽々)



左右の壁はテナント工事で将来的には一部撤去することも想定して構造計算されている



夢みのハウス

YUMEMINO HOUSE

コストパフォーマンスに優れ
開口部も広く取れる工法を初採用

JR東日本常磐線「ひたち野うしく」は、科学万博-つくば'85の万博中央駅跡地に1998年に建設された駅で、筑波研究学園都市へのアクセスのために開設された。この駅からほど近くに建設されたのが、2階建ての商業施設「夢みのハウス」。設計にあたっては、1階店舗の開口部を広くとるとともに建設コストを抑えることが要求された。このため、木造と鉄骨造を検討した結果、テクノストラクチャー工法を採用。これにより1階正面の開口部を4,500mmとし、木造軸組工法では得られないスパンが確保されている。

設計・施工にあたった株式会社伊勢喜屋工務店設計監理部主任 川越正俊氏は「当社は、木造軸組工法や2×4、鉄骨造を主流にしてきたが、今回開口部を大きく取りたかったために、テクノストラクチャー工法を採用した。鉄骨造と比較すると基礎をシンプルにすることができ、開口部とコストパフォーマンスが両立できた。また、1棟ずつ構造計算するため、竣工後のテナント工事が可能なところも明確になる。今回は1階隔壁に部分的に壁が撤去できる場所を設けたので、テナントが2部屋を1店として利用することも容易。テクノストラクチャーを採用した最初の件名だが、このためにビルダーズクラブにも入会した」と語る。